

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320005

研究課題名(和文) 介護と在宅医療における倫理的・法的問題の検討 専門職の問題対応能力の向上のために

研究課題名(英文) Problems in home health care and nursing care: Ethical and legal considerations to improve professionals' capability to respond to such problems

研究代表者

松田 純 (MASTUDA, JUN)

静岡大学・人文社会科学部・特任教授

研究者番号：30125679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：在宅医療と介護の現場におけるモラルディレンマを含むケースを検討し、『こんなときどうする？ 在宅医療と介護 ケースで学ぶ倫理と法』を編集し、公刊した(2014年、南山堂)。
本書を、専門職の研修会等で使用し、参加者に対して、倫理的問題についての理解度の変化についてアンケート調査を行った。その結果、思考力を鍛えることを重視する本書の教育効果を確認できた。
在宅医療と介護の分野において、モラルディレンマを含むケースに基づいて、多職種が協働で行う倫理的学習は非常に重要である。

研究成果の概要(英文)：We considered many cases concerning moral dilemmas in home health care and nursing care, published a collection of essays, entitled "Konnatoki dosuru? Zaitakuiryo to kaigo. Keisu de manabu rinri to ho", Nanzando, 2014.
We used this book in several professional training sessions and conducted questionnaire surveys about the changes in the level of the participants' understanding of ethical issues. As a result, we were able to confirm the educational effect of this book in building the ethical thinking of the professionals. In the area of health care and nursing care, collaborative multi-professional ethical learning about the cases of moral dilemmas is very important.

研究分野：倫理学

キーワード：生命倫理学 在宅医療 介護 成年後見制度 専門職倫理

1. 研究開始当初の背景

医学や看護分野では、生命倫理教育がある程度取り組まれ、医療倫理や看護倫理の教科書も多数刊行されている。しかし医療は医師や看護師だけではなく、多様な専門職によって担われている。在宅医療や介護の分野では、さらに多様な対人援助職が携わってくる。これらの援助職も現場でさまざまな倫理的葛藤に直面しているが、倫理教育や研修がほとんどなされていないことにより、それを「倫理問題」として認識すらできない状況にあり、重大な倫理問題が見過ごされ、日常業務のなかに流されていくという状況が見られた。

2. 研究の目的

倫理教育の取り組みや適切な教科書がほとんどない在宅医療と介護の分野において、倫理的・法的问题を検討し、モラルディレンマの分析を中心とした分かりやすいケースブックを編集・刊行し、専門職の養成教育および生涯研修に使用して、専門職の資質向上に役立てる。

3. 研究の方法

本研究は、既存の倫理学の理論や原則を新しい分野に「応用する(apply)」という構えではなく、個別具体的なケースのなかから既存の理論・原則を見直して行くという姿勢で臨んだ。つまり、単なる「応用倫理学(applied ethics)」ではなく、ドイツの哲学者ルードヴィヒ・ジープにより提唱されている「具体倫理学」(*Konkrete Ethik*, 2004)の戦略をとり、具体的ケースと原則との間、経験と理論との間を往復し、再吟味と修正を繰り返した。これによって、具体倫理学の実践方法を彫琢するとともに、倫理学全般に新たな問題意識と分析視点をフィードバックしていく。

4. 研究成果

(1)ケースブックの刊行

在宅医療と介護の現場におけるモラルディレンマを含むケースを収集し、それらを典型化した上で、倫理的・法的な考え方と対応について解説した。これらのケースの検討を『こんなときどうする？ 在宅医療と介護ケースで学ぶ倫理と法』としてまとめ、公刊した(2014年3月、南山堂)。本書はこの分野で、現場の専門職と学際的な研究チームによって編集された本邦初の研修用ケースブックである。

本書を専門職の養成機関や現場の専門職の研修会などで用い、ケースに基づくグループディスカッションを行い、終了後に、参加者に対して、理解度や倫理的問題への取り組み方の変化などについてアンケート調査を行った(回収数:224件)。その結果、「法制度や倫理についての考え方を、事例検討を通して具体的に学ぶことができた」などの感想を得た。マニュアル的に答えを探すのではなく思考力を鍛えることを重視する本書の教

育効果を確認できた。

また、公開シンポジウム「在宅医療と介護の倫理と法 専門職の資質向上のために」を開催し、専門職から直接、意見をj得る機会ももった。在宅医療と介護の分野において、モラルディレンマを含むケースに基づいて多職種で行う倫理的学習は、共通の課題をめぐって、各自の視点を他職種の視点とすり合わせながら展開される。これは多職種間での相互理解を深め、倫理的観点から連携を強化することにも貢献する。その意味でも、多職種での協働的な倫理研修はきわめて有効であり、在宅医療と介護の質を高めていく上で必須であることがわかった。

引き続き、ケースブックの続編の編集にj取り組み、ケースの収集と物語化と考え方の検討を進め、刊行のめどをつけつつある。

(2)新しい知見

医療倫理における自律尊重の原則は、理性的な判断力をもつ人格を前提し、判断力のない人に対しては、恩恵の原則に従って「本人の最善」を考えたケアを基本としてきた。しかし、とりわけ高齢者へのケアにおいて悩ましい問題は、認知症などによって徐々に判断力が減退していく過程で、本人の意思をどこまで尊重できるかということである。現場ではさまざまな工夫や提言がなされているが、倫理学の側から、その根拠づけはほとんどなされていない。自律尊重原則についての従来の理解を検討し直し、在宅医療と介護の分野で、本人の思いと自律が生活の広い分野で尊重され、自己決定を行使する能力をできるだけ長く保てるような支援をめざし、ケアの専門職の倫理的対応力の向上に理論的な基礎を提示することが求められている。ケースブックの続編や、既刊ケースブックの改訂版では、その視点からさらに考察を深めていきたい。

(3)成年後見制度の法的検討

成年後見人等の職務に実際に携わっている弁護士や司法書士、社会福祉士等にヒアリング調査を継続的に行い、法の理念と現実とが乖離した現状を明らかにし、その理由や背景の分析に努めた。この成果の一部を国内外のセミナーや論文等で発表した。こうした取り組みはわが国の成年後見制度の改善へむけた取り組みに影響を与えた。

(4)学会への問題提起

日本生命倫理学会の年次大会で2回、関連テーマでシンポジウムを企画し、在宅医療と介護分野の専門職の資質向上をめざす取り組みについて提言し、学会員と認識を共有できた。このほか、日本理学療法士協会学術大会や日本薬剤師会学術大会、日本社会薬学会などの招待講演のなかで、研究成果を発表するとともに、ベトナム、中国、台湾、韓国等で研究成果を発表し、国際的な研究連携を深めることができた。

(5)地域での連携、市民への研究成果の普及

公開講座や公開講演会などを複数回開催し、地域の対人援助職と問題意識を共有し、連携ネットワークを構築する機会となった。(6)倫理と法を扱う前提となる基礎理論を含む『科学技術研究の倫理入門』(ドイツ語)を全訳し、刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計24件)

宮下修一、高齢者と適合性原則、高齢者を巡る判例の分析と展開(金融・商事判例増刊) 査読無、1486、2016、12-15

松田純、神経難病における健康概念と現代医療倫理学、総合医療、査読無、25巻1号、2015、258-260

松田純、公募シンポジウム 在宅医療と介護の倫理と法 地域医療をどう支えるか、日本生命倫理学会ニューズレター、査読有、57、2015、90-10

青田安史、ベッドサイドでできるリハ・ケア ベッドサイドでできる拘縮予防と改善の具体策、認知症介護、査読無、16(3)、2015、47-56

天野ゆかり、外国人介護人材の受け入れ「アジアの介護」をともに学び合う、地域ケアリング、査読無、17(13)、2015、30-35

神馬幸一、安楽死・尊厳死、法学教室、査読無、418、2015、9-15

神馬幸一、医師に課される法的守秘義務の変容? 最決平成24年2月13日に関する管見、年報医事法学、査読無、30号、2015、39-45

堂園俊彦、倫理的価値の普遍性と実在性 パトナム=ハーバーマス論争を手懸かりに、人文論集、査読無、65(2)、2015、47-73

堂園俊彦、厚い概念としての人間の尊厳、哲学誌、査読有、56巻、2014、1-24

宮下修一、認知症高齢者の列車事故と不法行為責任・成年後見制度のあり方 「JR東海列車事故第一審判決」がもたらすもの、静岡大学法政研究、査読無、18巻3-4号、2014、576-532、

神馬幸一、治療行為の中止:川崎協同病院事件、別冊ジュリスト刑法判例百選 総論(第7版) 査読無、220号、2014、44-45

神馬幸一、法的守秘義務に関する倫理的

義性、生命倫理、査読有、24巻1号、2014、107-115

松田純、理学療法士に求められる倫理とは 事例に基づく倫理トレーニングと徳の教育、理学療法学、査読有、41巻4号、2014、260-265

DOI :<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009844005>

青田安史、平野幸伸、松村剛志、卒後における理学療法士の医療倫理教育に関する機会と認識について 静岡県に勤務する理学療法士に対する調査から、リハビリテーション教育研究、査読無、19巻、2014、206-207

青田安史、村上弘之、安藤郁子、平野幸伸他、医療専門職を目指す初学者の専門職倫理観の発達に関する基礎的研究 道徳判断の発達測定から、常葉大学健康科学部研究論集、査読無、1巻、2014、77-85

比留間洋一、天野ゆかり、ベトナム第6回全国看護科学会議について:来日したベトナム人EPA候補者の教育を中心とした背景、国際関係・比較文化研究、査読無、13巻1、2014、165-189

景山京子、神馬幸一、橋本悟、医療従事者が知っておきたい民事訴訟法における手続後編:事実認定のための証拠と判決の効力、麻酔、査読有、62巻5、2013、623-628

神馬幸一、刑事裁判例批評(240)相手方に接触することなく詰め寄り、後方に転倒させた行為が傷害罪の実行行為としての暴行に当たるとされた事例(大阪高裁第1刑事部平成24.3.13判決) 刑事法ジャーナル、査読無、38巻、2013、73-78

宮下修一、成年後見人の選任・監督に関する家事審判官の責任、民事判例、査読無、VII2013年前期、2013、110-113

松田純、在宅医療における医療倫理-尊厳死法と事前指示、薬局、査読無、63(9)、2012、29-35

①松田純、応用倫理学から具体倫理学へ 対人援助職との研究連携のなかから、文化と哲学、査読有、29巻、2012、15-23

②松田純、薬剤師の"臨床倫理"科学知と人文知の統合を「医薬ジャーナル」編集長 VISITING (349)、査読無、医薬ジャーナル、48巻12号、2012、150-157

③南山浩二、あいまいな喪失 存在と不在をめぐる不確実性、精神療法、査読無、38(4)、2012、455-459

②4宮下修一、現場にみる成年後見制度の問題点 ヒアリング調査から、民事判例、査読無、V 2012 年前期、2012、112-123

〔学会発表〕(計 29 件)

松田純、最期をどう迎えるか？ 終末期医療と死生観を考える、東部生涯学習センター「自分と家族の生き方講座」、招待講演、静岡市東部生涯学習センター(静岡市)、2015-03-07

青田安史、終末期リハビリテーションの考え方、東部生涯学習センター「自分と家族の生き方講座」、招待講演、静岡市東部生涯学習センター(静岡市)、2015-02-28

青田安史、介護予防ボランティア活動の役割と生きがい、平成 26 年度静岡県東部地域ボランティア交流会(静岡県東部健康福祉センター 福祉課主催)、招待講演、沼津労働会館(沼津市)、2015-02-26

宮下修一、成年後見制度、東部生涯学習センター「自分と家族の生き方講座」、招待講演、静岡市東部生涯学習センター(静岡市)、2015-02-14

神馬幸一、医師に課される法的守秘義務の変容？ 第 44 回日本医事法学会、中央大学駿河台記念館(東京都千代田区)、2014-11-30

松田純、薬学倫理教育のめざすもの 創薬研究から在宅医療まで、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「四国の全薬学部連携・共同による薬学教育改革」特別招待講演、松山大学(愛媛県松山市)、2014-11-27

青田安史、理学療法の射程を見据える 理学療法士を取り巻く環境の変化から、第 30 回東海北陸理学療法学会大会・大会長基調講演、静岡市民文化会館(静岡市)、2014-11-05

松田純、在宅医療と介護の倫理と法 地域医療をどう支えるか、第 26 回日本生命倫理学会年次大会・シンポジウム「在宅医療と介護の倫理と法 地域医療をどう支えるか」、アクトシティ浜松(浜松市)、2014-10-20

青田安史、病院から在宅へ リハビリテーション医療における倫理的な課題、第 26 回日本生命倫理学会年次大会・シンポジウム「在宅医療と介護の倫理と法 地域医療をどう支えるか」、アクトシティ浜松(浜松市)、2014-10-20

宮下修一、在宅医療と介護をめぐる法的問題 成年後見を中心に、第 26 回日本生命倫理学会年次大会・シンポジウム「在宅医療と介護の倫理と法 地域医療をどう支

るか」、アクトシティ浜松(浜松市)、2014-10-20

松田純、在宅医療と介護の倫理と法 専門職の資質向上のために(趣旨説明)、公開シンポジウム「在宅医療と介護の倫理と法 専門職の資質向上のために」、静岡市産学交流センター・ビネスト(静岡市)、2014-09-20

天野ゆかり、専門職養成における倫理教育の現状と課題 調査結果に基づく報告、公開シンポジウム「在宅医療と介護の倫理と法 専門職の資質向上のために」、静岡市産学交流センター・ビネスト(静岡市)、2014-09-20

宮下修一、日本における市民後見人の現状と将来、東アジア成年後見制度国際シンポジウム、招待講演、亜泰国際倶楽部(中華人民共和国長春市)、2014-09-05

宮下修一、日本の市民後見人の教育育成と支援システムの現状、韓・日 公共後見人・後見活動家・専門家会議(ワークショップ)、招待講演、嶺南大学校(大韓民国慶山市)、2014-05-03

松田純、在宅医療と介護の倫理 病院と違う在宅の特徴とは、第 26 回静岡緩和ケア研究会、静岡県男女共同参画センターあざれあ(静岡市)、2014-04-26

天野ゆかり、Various practices of nursing care for elderly people in Japan(日本の高齢者ケアの実践について)、ベトナム国立ナムディン看護大学設立 10 周年記念シンポジウム「ベトナムにおける高齢者ヘルスケアにおける養成の改革と実践の改善」招待講演、NAM DHIN UNIVERSITY OF NURSING(ベトナム：ナムディン看護大学)、2014-03-12-2014-03-16

松田純、サイバニクスの活用とエンハンスメント 新しい健康概念をふまえて、公開シンポジウム「最新テクノロジーとバリアフリー」、東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター、招待講演、東京大学(東京都)、2014-03-01

加藤尚武、頼れる専門職の条件 専門職と徳倫理、静岡大学人文社会科学部・大学院人文社会科学研究科講演会、招待講演、静岡大学人文社会科学部(静岡市)、2014-02-12

宮下修一、成年後見監督制度のあり方の再検討 ヒアリング調査をふまえて、東アジア成年後見制度シンポジウム、招待講演、東呉大学(中華民国)、2013-12-26

松田純、サイバニクスを医療・介護に活かす ロボットスーツ HAL; 治験と人支援技術の未来展望、(オーガナイザー) 第 25 回日本生命倫理学会年次大会、東京大学(東京都) 2013-12-01

②1 堂園俊彦、医療倫理の基礎 臨床の場で問題を共有し話し合うために、恩賜財団済生会横浜市南部病院講演会、招待講演、恩賜財団済生会横浜市南部病院(横浜市) 2013-11-20

②2 青田安史、松田純、理学療法士に求められる倫理とは 事例に基づく倫理トレーニング、第 48 回日本理学療法士協会全国学術研修大会、招待講演、アクトシティ(浜松市) 2013-10-05

②3 天野ゆかり、EPA に基づく外国人介護福祉士受入れをめぐる教育的課題 静岡県における受入れ支援を通して見えるもの、第 21 回日本介護福祉学会大会、熊本学園大学(熊本市) 2013-09-20

②4 青田安史、在宅リハビリテーションの現状と課題、順天堂大学保健看護学部特別講義「在宅看護方法論」、招待講演、順天堂大学保健看護学部(三島市) 2013-07-02

②5 松田純、実務セッション 在宅医療・介護をどう支えるか(オーガナイザー)、第 17 回静岡健康・長寿学術フォーラム、招待講演、静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ(静岡市)、2012-11-17

②6 松田純、薬剤師に求められる倫理とは 薬剤師の人柄と倫理原則、第 45 回日本薬剤師会学術大会特別講演、招待講演、アクトシティ浜松(浜松市) 2012-10-07

②7 松田純、身体拘束と高齢者の人権擁護、静岡県看護協会平成 24 年度高齢者権利擁護等推進研修「身体拘束廃止推進員養成研修」、招待講演、静岡県看護協会(静岡市)、2012-09-10

②8 青田安史、在宅におけるリハビリテーションの諸問題 在宅生活を支援するリハビリテーションを考える、静岡市生涯学習推進課等公開講座「在宅医療・介護のこれからを考える 充実したネットワーク作りを目指して」、招待講演、アイセル 21(静岡市)、2012-06-12

②9 松田純、在宅医療・介護をどう支えるか 倫理と法の観点から、静岡市生涯学習推進課等公開講座「在宅医療・介護のこれからを考える 充実したネットワーク作りを目指して」、招待講演、アイセル 21(静岡市)、2012-06-12

〔図書〕(計 8 件)

加藤尚武、死を迎える心構え、PHP 研究所 2016、243

加藤尚武(監訳)・児玉聡他(訳)、徳倫理学基本論文集、勁草書房、2015、349

宮下修一、草野芳郎、岡孝他、高齢者支援の新たな枠組みを求めて、白峰社、2015、520

加藤尚武、松田純、座小田豊、栗原隆他、生の倫理と世界の論理、東北大学出版会、2015、338

松田純、堂園俊彦、後藤恵子、井手口直子他、ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション、南山堂、2014、268

松田純、天野ゆかり、青田安史、宮下修一、堂園俊彦、南山浩二、神馬幸一、加藤尚武、相澤出、上藤美紀代、遠藤博之、大塚芳子、大塚芳正、大出順、上久保真理子、小島孝子、高井由美子、中村美智太郎、牧山康志、持塚久美子、こんなときどうする? 在宅医療と介護ケースで学ぶ倫理と法、南山堂、2014、140

南山浩二、清水新二他、臨床家族社会学、放送大学教育振興会、2014、285

松田純監訳、堂園俊彦、神馬幸一他訳、ミヒヤエル・フックス(編著)科学技術研究の倫理入門、知泉書館、2013、442

〔その他〕

ホームページ等

<http://life-care.hss.shizuoka.ac.jp/index.php>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松田 純 (MATSUDA, Jun)

静岡大学・人文社会科学部・特任教授

30125679

(2) 研究分担者

堂園 俊彦 (DOZONO, Toshihiko)

静岡大学・人文社会科学部・准教授

90396705

宮下 修一 (MIYASHITA, Shuichi)

静岡大学・法務研究科・教授

80377712

南山 浩二 (MINAMIYAMA, Koji)

成城大学・社会イノベーション学部・教授

60293586

神馬 幸一(JIMBA、Koichi)
獨協大学・法学部・准教授
60515419

青田 安史(AOTA、Yasushi)
常葉大学・健康科学部・准教授
90551424

天野 ゆかり(AMANO、Yukari)
静岡県立大学・短期大学部・助教
60469484

(3)連携研究者

加藤 尚武(KATO、Hisatake)
人間総合科学大学・人間科学部・教授
10011305